

庄内小だより

令和三年二月九日
 第十一号
 豊中市立庄内小学校

学校診断アンケート 結果

学校アンケートに「協力ありがとうございました。」提出いただいたものを集計し、結果をお知らせいたします。それぞれの項目の結果についての「コメント」も載せています。ぜひご覧ください。昨年度、今年度については、コロナ禍の中、各家庭においても例年以上「学校運営」に関して「理解協力」いただいた大変感謝しています。今後も学校、家庭、地域が連携し、様々な工夫しながらの「学校運営」なるかと思えます。学校アンケートの結果を今後の「学校運営」に活かしていきたいと思えます。引き続き「いっしょにがんばろう」とお願ひいたします。

質問	1	2	3	4	合計
1 学校は、保護者・地域の願ひに答えている。	42 35%	63 53%	13 11%	2 2%	120
2 学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。	50 42%	54 46%	11 9%	3 3%	118
3 学校は、子どもについての相談に適切に応じてくれる。	61 52%	47 40%	5 4%	5 4%	118
4 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	57 48%	47 40%	9 8%	5 4%	118
5 学校は、子どもに命を大切にす る心や生活のルールを守る態度 を育てよとしている。	63 53%	46 39%	6 5%	3 3%	118
6 学校は、人権を尊重する意識を 育てよとしている。	52 44%	56 47%	6 5%	4 3%	118
7 子どもは、先生に自分のことを理 解してもらえると知っている。	55 47%	44 37%	16 14%	3 3%	118
8 子どもは、学校に行くのを楽しみ にしている。	67 57%	40 34%	9 8%	2 2%	118
9 子どもは、学校に友達が多いと 知っている。	67 57%	35 30%	15 13%	1 1%	118
10 子どもは、授業の中で「できた」 「楽しい」と感じる場面があると 知っている。	68 57%	42 35%	8 7%	1 1%	119
11 子どもは、授業でわからないこと について、先生に質問しやすい と知っている。	56 48%	42 36%	15 13%	4 3%	117
12 子どもは、朝読書をするることによ り、本を読むのが楽しくなったと 知っている。	44 37%	41 35%	22 19%	11 9%	118

1あてはまる 2ややあてはまる 3あまりあてはまらない 4まったくあてはまらない

①学校は、保護者・地域の願ひに答えている。

昨年度、今年度については、保護者や地域の方が学校に来て直接児童の様子を見たり、担任と意見交流したりする機会が少なかつたのが現実です。その為、保護者や地域の方の願ひを十分にお聞きすることができなかったようにも思えます。直接来校できなくてもオンラインでの参観授業を積極的に行うなど、学校での児童の様子をより保護者に伝えられるように工夫していきます。

②学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。

定期的に個人懇談会を行い、学校と家庭の意見交流の場を設定してきました。個人懇談は時間が限られているので、十分な情報共有ができていない部分もあるかと思えます。その為場合によっては随時個別に連絡を行っているところですが、今後においても、学校と家庭が同じ方向を向いて児童への教育及び支援を行っていただけるように、連絡を密にとつていきたいと思えます。

③学校は、子どもについての相談に適切に応じてくれる。

担任はじめ、生徒指導の教員、学年団の教員が中心となり、児童の悩みに寄り添えるような体制を引き続き徹底していきたいと思えます。保護者からの相談があれば適切な対応をし、あわせて児童の様子をよく観察していきます。また、教員間の情報共有や次年度への引き継ぎを徹底していきます。

裏面に続きます

④学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。

いじめ防止基本方針にしたがって、いじめや暴力のない学校づくりに努めているところです。定期的に(基本的に週一回)「いじめ不登校対策委員会(すこやか委員会)」を行い、児童の実態把握及び対策の会議をしています。学期に一回は、教職員全体で情報共有を行い、方針等を考えています。定期開催の会議だけでなく、臨時に会議も設けているところです。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、関係機関とも引き続き連携をとりながら、児童が安心して学校生活を過ごせるように努めています。

⑤学校は、子どもに命を大切にすることを心や生活のルールを守る態度を育てようとしている。

道徳など普段の授業の中で、自他の命を大切にすることを児童に伝え続けています。避難訓練も定期的に実施し、その都度、命の大切さについては児童に話をしています。みんなが気持ちよく生活できるように学校での生活のルールがあるということを一度子どもたちに伝え、ルールを守ることが、周りに友だちを守ることにつながるという認識を持ってもらえるように指導していきます。

⑥学校は、人権を尊重する意識を育てようとしている。

本校は、人権教育と教科教育を両輪として、研究を進めています。人権学習は、全ての教科指導、生活指導の基盤にあるものと認識のもと、様々な教育活動を行っているところです。人権を尊重する意識は、学校の中だけで育てるのではなく、社会全体として考えるべきところです。今後も、学校の人権教育について地域、保護者の皆さまに「理解いただき、ご意見を頂戴しながら、ともに連携して推し進めていきます」。

⑦子どもは、先生に自分のことを理解してもらえと言っている。

日頃から、担任の教員中心に児童の思いに耳を傾け、児童理解に努めています。今後においても児童に悩み等があれば相談の機会を設けるなど、児童一人ひとりに寄り添い、悩みをしっかりと受け止めるとともに児童の頑張りや成長を把握し児童理解に努めていきます。

⑧子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。

学級の集団を基本として、多くの児童と関わりを持ちながらの教育活動を展開しています。共に学び合う姿を大切にして、今後も教育活動を推進していきます。コロナの感染状況との兼ね合いもありますが、学級集団のみならず、異学年との交流も大切にしていきたいと思えます。

⑨子どもは、学校に友達が多いと言っている。

児童同士のつながりを大切にして、友だちの輪がより広がるように工夫して教育活動を行っています。全ての子どもが友だちと共に学び、助け合いながら学校生活を送り、充実した生活を送れるように教育環境の整備に努めます。

⑩子どもは、授業の中で「できた」「楽しい」と感じる場面があると知っている。

日頃から教職員は、児童にとって分かりやすく、楽しい学習になるよう工夫しながら授業を行っています。入念に教材研究を行ったり、研修を重ねたりしながら、日々研鑽しているところです。今後においても児童の実態を把握しながら、児童が「できた」「楽しい」と思える場面をより多く創り出したいと思えます。

⑪子どもは、授業でわからないことについて、先生に質問しやすいと言っている。

授業中のもとより、放課後学習(たけのこ)も実施し、児童の学習のつまずきに対応しています。休み時間においても、担任、専科教員を中心に補習を行っています。今後においても、いつでも学習について相談できるような環境づくりに努めます。

⑫子どもは、朝読書をするにより、本を読むのが楽しくなったと言っている。

基本的に週一時間図書時間を設けています。一人読書だけでなく、司書の先生からの読み聞かせや担任と司書が連携して、図書館教育を推進しています。職員室前には、「ちょこっとライブラリー」も開設しました。今後も児童が本を手にとる機会をより増やそうと努めていきます。